

2018年（平成30年） 4月13日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/29~4/4のNYMEX・WTIは、63.01~64.94ドルの範囲で堅調に推移した。

4月5日は、米高官が中国の知的財産権侵害に対する制裁措置について協議に応じる姿勢を示し、米中貿易摩擦激化への懸念が軽減されたことで、反発した。ただ、ドル高に伴う原油の割高感が上値を抑えた。5月限の終値は前日比0.17ドル高の63.54ドルだった。

週末6日は、トランプ大統領が1000億ドル規模の対中追加関税の検討を表明、米中貿易摩擦再燃が意識されたこと、さらに、ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が808基（前週比11基増）と2週振りに増加ことから、反落した。5月限の終値は前日比1.48ドル安の62.06ドルだった。

週明け9日は、トランプ大統領がツイッターで中国の譲歩を示唆、米中貿易摩擦激化への警戒感が和らいだこと、また、ドル安進行で原油の割安感が生じたこと、さらに、シリアのアサド政権の化学兵器使用疑惑に対する米国の軍事行動の可能性も意識されたことから、大きく反発した。5月限の終値は前週末比1.36ドル高の63.42ドルだった。

10日は、習近平中国国家主席が輸入拡大による貿易不均衡是正の方針を発言、米中貿易摩擦激化の懸念が後退したこと、米国によるシリア攻撃の可能性が一段と高まったことから、大幅続伸した。5月限の終値は前日比2.09ドル高の65.51ドルだった。

11日は、連日のシリア情勢緊迫化に加え、サウジが首都リヤド上空でミサイルを迎撃したとの報道で3日続伸、2014年12月以来3年4ヵ月振りの高値をつけた。米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が市場予想に反して

増加したが、影響は限定的だった。5月限の終値は1.31ドル高の66.82ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週64.70~66.50ドルの範囲で推移した。4月5日65.30ドル、6日65.10ドル、9日64.70ドル、10日66.80ドル、11日67.60ドルで推移した。

為替は、前週105.84~106.90円の範囲で推移した。4月5日106.83円、6日107.22円、9日106.87円、10日106.75円、11日107.10円で推移した。

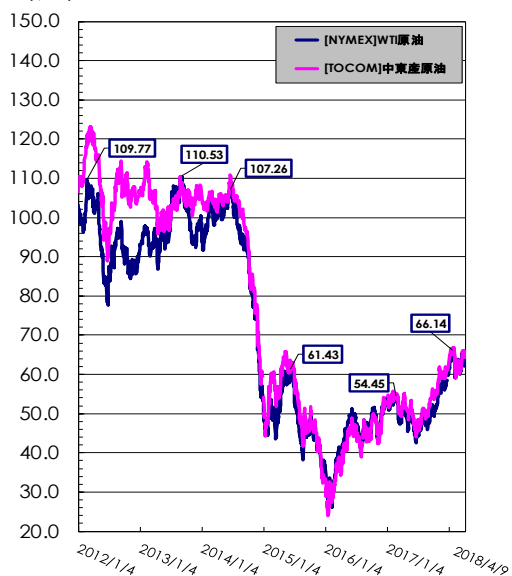
財務省が6日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格は、44,623円/klとなり、前旬を890円下回った。ドル建てでは66.60ドルで前旬比1.03ドル安。為替レートは1ドル/106.53円。

主要元売会社の4月第3週に適用する卸価格は、ガソリンが全社据え置き、軽油も全社据え置き、灯油が据え置きから0.5~1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートも円安がこれを一部相殺したが、原油調達コストはわずかに値下がりした。

そのような中で、4月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油は同1円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは10週振りの値上がり、軽油は9週振りの値上がり、灯油は7週振りの値上がり(18%ベース)だった。この週(4月第2週)の原油コストはやや値上がりし、元売の卸価格は、ガソリンが全社0.5円の値上げ、軽油も全社0.5円の値上げ、灯油が全社据え置きだった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/1 ~ 4/7	3,677 ▲17	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.9 ▲0.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/7	12,076 ▼-548	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/9	64.34 ▼-1.78	▲ 10.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/9	63.42 ▲0.41	▲ 10.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	66.60 ▼-1.03	▲ 10.48
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,623 ▼-890	▲ 4,464
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.53 ▲0.46	▲ 7.24
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/9	107.87 ▼-0.57	▲ 4.56

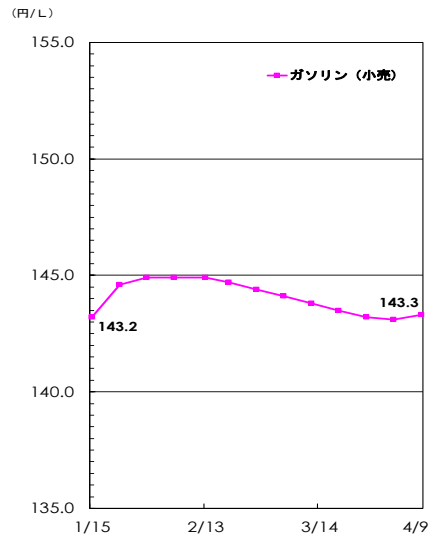
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/1 ~ 4/7	1,119 ▲ 86	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	985 ▲ 116	▲ -	
	輸出	"	79 ▼ -21	▲ -	
	在庫	4/7	1,700 ▲ 55	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/3 ~ 4/9	60.0 ▲ 0.4	▲ 7.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/3 ~ 4/9	58.2 ▼ -0.8	▲ 6.9
		(TOCOM/中部)	4/9	58.7 ▼ -0.8	▲ 6.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/9	143.3 ▲ 0.2	▲ 9.4	

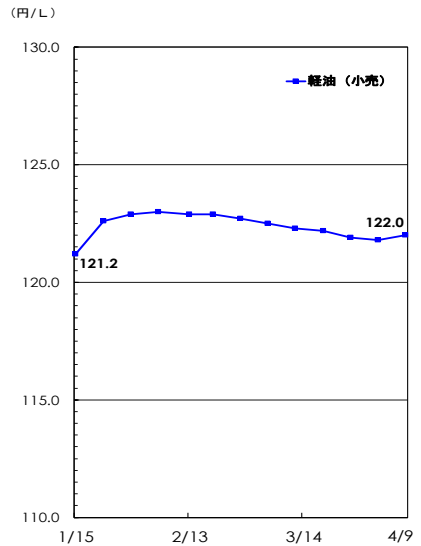
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

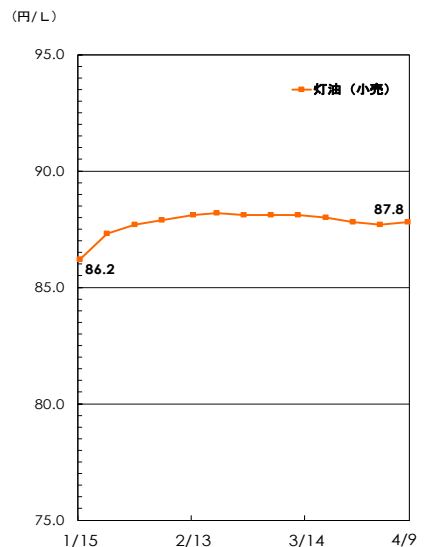
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/1 ~ 4/7	809 ▼ -58	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	641 ▼ -19	▼ -	
	輸出	"	93 ▼ -180	▲ -	
	在庫	4/7	1,323 ▲ 74	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/3 ~ 4/9	61.2 ▲ 0.6	▲ 10.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/3 ~ 4/9	60.9 ▼ -0.3	▲ 12.9
		(TOCOM/中部)	4/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/9	122.0 ▲ 0.2	▲ 9.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/1 ~ 4/7	205 ▼ -163	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	189 ▼ -21	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -53	▶ -	
	在庫	4/7	1,518 ▲ 16	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/3 ~ 4/9	62.6 ▼ -0.1	▲ 13.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/3 ~ 4/9	59.2 ▼ -0.7	▲ 12.9
		(TOCOM/中部)	4/9	60.0 ▲ 1.5	▲ 12.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/9	87.8 ▲ 0.1	▲ 10.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月11日のNYMEX市場WTI原油は、シリアのアサド政権の化学兵器使用疑惑を巡るトランプ政権による軍事行動の可能性が高まったこと、サウジ政府が首都リヤド上空でイエメンのフーシ派からと見られるミサイルを迎撃したとの報道があったこと等から、3日続伸、中心限月ベースで、2014年12月初旬以来約3年4か月振りの高値を付けた。米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比330万バレル増と市場予想(同20万バレル減)に反して積み増し、ガソリン在庫も前週比50万バレル増と市場予想(同140万バレル減)に反して積み増しとなったが、市場への影響は限定的だった。5月限の終値は前日比1.31ドル高の

66.82ドル、6月限の終値は前日比1.30ドル高の66.74ドルだった。

EIAによると、4月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値下がりの1ガロン2.694ドル(76.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.1セント値上がりの3.043ドル(86.6円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値下がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年4月1日～4月7日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して6.5万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は367.7万klと、前週に比べ1.7万kl増加。前年に対しては19.0万klの増加。トッパー稼働率は93.9%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しては4.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットで増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/8.3%増、ジェット/37.9%増、灯油/44.3%減、軽油/6.7%減、A重油/9.8%減、C重油/20.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比5.4万kl減)。軽油の輸出は9.3万kl(前週比18.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリンが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は98.5万kl(対前週13.5%増)と2週振りで前週比、前年比で増加となり、2週連続で100万klを下回った。ジェット6.6万kl(対前週7.4%減)、灯

油18.9万kl(対前週9.7%減)、軽油64.1万kl(対前週2.9%減)、A重油20.6万kl(対前週17.9%減)、C重油11.9万kl(対前週50.7%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/1 ~ 4/7)	前週 (3/25 ~ 3/31)	前週比
ガソリン	985	869	▲ 116 (13%)
ジェット燃料	66	72	▼ -6 (-8%)
灯油	189	210	▼ -21 (-10%)
軽油	641	660	▼ -19 (-3%)
A重油	206	251	▼ -45 (-18%)
C重油	119	242	▼ -123 (-51%)
合計	2,206	2,304	▼ -98 (-4%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月7日時点の在庫は、全ての油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは170.0万kl、前週差5.5万kl増。前年に対しては6.2万kl少ない。

灯油は151.8万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては54.5万kl多い。

軽油は132.3万kl、前週差7.4万kl増。前年に対しては12.1万kl少ない。

A重油は74.6万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は193.5万kl、前週差12.3万kl増。前年に対しては1.5万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/7)	前週 (3/31)	前週比
ガソリン	1,700	1,645	▲ 55 (3%)
ジェット燃料	1,082	960	▲ 122 (13%)
灯油	1,518	1,502	▲ 16 (1%)
軽油	1,323	1,249	▲ 74 (6%)
A重油	746	706	▲ 40 (6%)
C重油	1,935	1,812	▲ 123 (7%)
合計	8,304	7,874	▲ 430 (5.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月3日から4月9日の原油価格は、前週対比で値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、4月3日～4月9日までの間、ガソリン113～114円台でわずかな値上がり後値下がり、軽油61円台でわずかな値上がり後横ばい、灯油62～63円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン115～116円台

で値上がり後値下がり、軽油62円台で横ばい、灯油58～60円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン111～112円台で値上がり後値下がり、軽油60～61円台で値下がり後横ばい、灯油58～59円台で値上がり後値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは全社据え置き、軽油も全社据え置き、灯油は据え置きと0.5～1.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上・陸上のガソリン、海上・陸上の軽油で値上がりしたが、灯油全取引、先物全取引が値下がりした。

4月第3週(4月12日～4月18日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月3日～4月9日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は1.5円の値下がり、軽油は1.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.8円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替の円安がこれを一部相殺したが、原油コストはわずかに値下がりした。

4月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリンが全社据え置き、軽油も全社据え置き、灯油が据え置きと0.5～1.0円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/3～4/9)	前週 (3/27～4/2)	前週比
レギュラー	60.0	59.6	▲ 0.4
灯油	62.6	62.7	▼ -0.1
軽油	61.2	60.6	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (4/3～4/9)	前週 (3/27～4/2)	前週比
レギュラー	58.2	59.0	▼ -0.8
灯油	59.2	59.9	▼ -0.7
軽油	60.9	61.2	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/3～4/9実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	▼ -0.8	▼ -0.2
灯油	▼ -0.1	▼ -0.7	▼ -0.4
軽油	▲ 0.6	▼ -0.3	▲ 0.2
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の143.3円、軽油は同0.2円高の122.0円、灯油は同0.1円高の87.8円(18%ベースでは同1円高の1580円)だった。ガソリンは10週振りの値上がり、軽油は9週振りの値上がり、灯油は7週振りの値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは30道府県、横ばいは5県、値下がり12都県だった。全国最安値は徳島県の135.7円(同0.6円安)、次が岡山県の137.8円(同0.1円安)、最高値は長崎県の151.7円(同0.1円高)だった。最も値上がりしたのは、1.1円高の山口県(142.6円)・茨城県(141.1円)だった。最も値下がりしたのは、0.8円安の宮崎県(144.1円)だった。

先週の原油コストは値上りし、元売の卸価格は、ガソリンが全社据え置き、軽油も全社据え置き、灯油が据え置きと0.5～1.0円の値下げに分かれた。10週振りにガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値下がりしたが、為替レートの円安がこれを一部相殺し、原油コストはわずかに値下がりした。次週(4月16日)のガソリンの小売価格は横ばいが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (4/9)	前週 (4/2)	前週比	直近高値
レギュラー	143.3	143.1	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	87.8	87.7	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	122.0	121.8	▲ 0.2	08/8/4 167.4

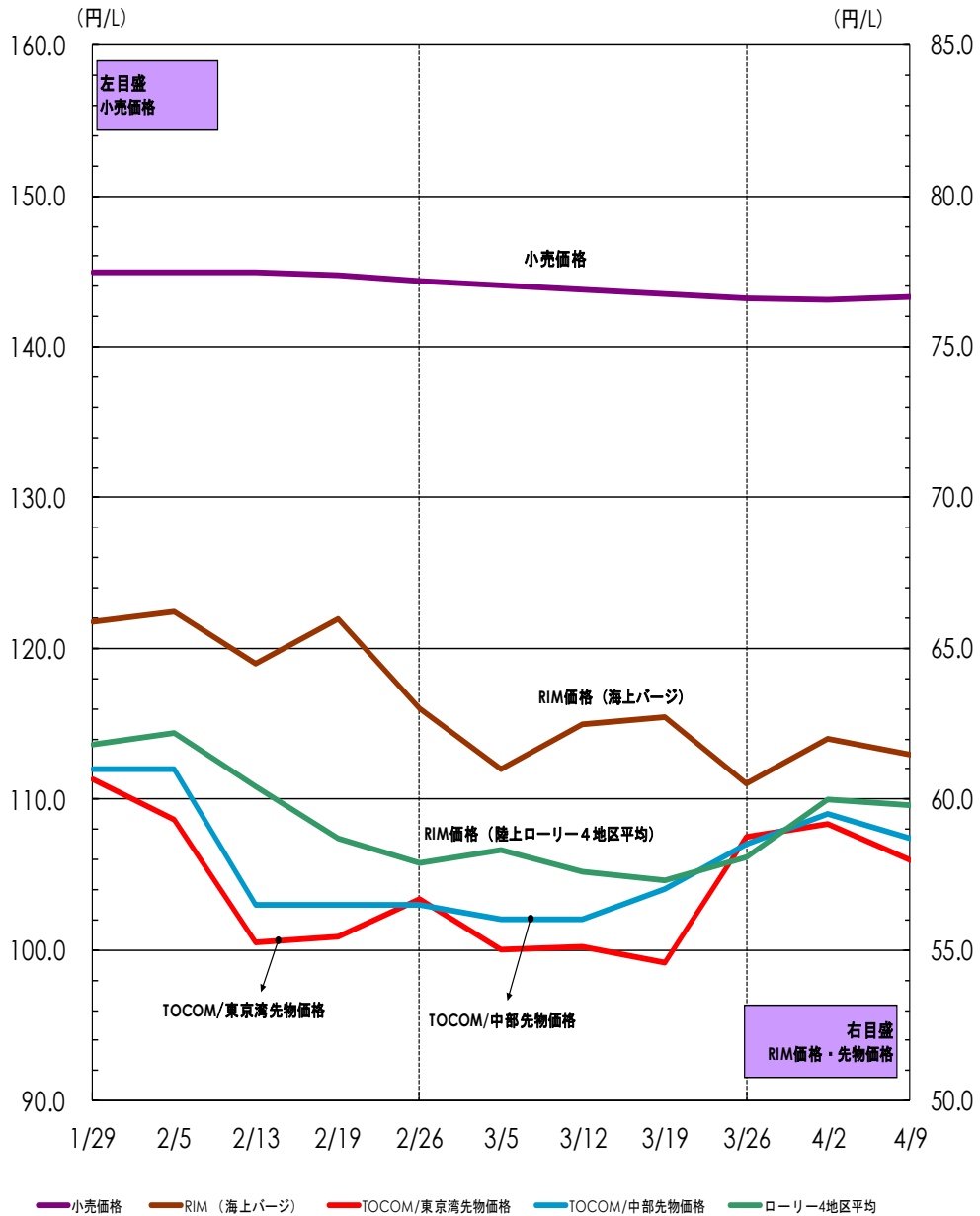
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/1/29 ~ 2018/4/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第3号)の公表は、4/20(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。